

2 戦乱の世に備えた街と歓楽の街

庭坂宿と、うたかたの歓楽街「湯町」を歩く

明治14年万世大路が開通すると米沢街道の交通量は減少しました。明治18年柴山信夫郡長はかつての繁栄を取り戻そうと高湯から引湯をして湯町を建設したのです。延長500m、幅員18mの道路両側に3カ所の湯小屋・旅館・料理屋・商店・遊郭が建ち並び活況を呈しました。一面には高級役人の公舎があり、2頭立ての馬車で福島に通ったとの話は有名です。しかし、湯漏れなどから反対運動が起こり明治31年に引湯を廃止しました。



湯町の図 (高湯温泉場全図銅版画)



①赤レンガ油保管庫

奥羽南線(現・奥羽本線)が開通した明治32年に建てられた耐火倉庫です。産業発展の歴史を伝える土木構造物として平成11年に産業考古学会の「推薦産業遺産」に選ばれています。



②守子観音

千手観音が祀られていますが、堂内に慈母観音も祀られていることから「守子観音」と呼ばれています。江戸時代中期の建築様式です。石灯笼は信州高遠の小林運八の作です。



③鷲神社参道石塔群

参道が奥羽本線によって分断されておりますが、庭坂宿の木戸口として多くの石塔が遺されています。大きな岩は庭坂宿の目印となった六地藏の台座です。



④鷲神社

文永2年(1265)に堂石山より現在地に遷座したと伝えられています。村人を困らせていた大蛇を退治した大鷲を祀ったものだともいわれています。



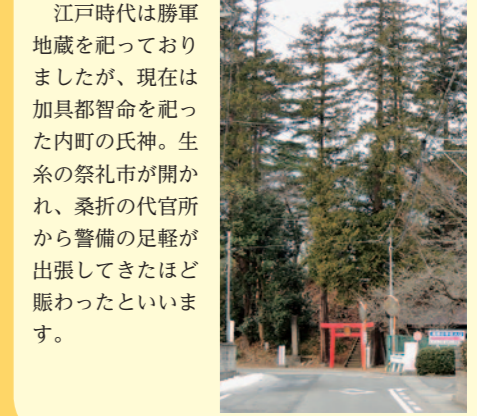
⑤庭坂銀行(信夫銀行)跡

明治12年に庭坂銀行として開業。明治14年に信夫銀行と改称し飯坂支店を開設するほどであったが、まもなく閉業した。(清水寺に記念碑があります)



⑥愛宕神社

江戸時代は勝軍地蔵を祀っておりましたが、現在は加具都智命を祀った内町の氏神。生糸の祭礼市が開かれ、桑折の代官所から警備の足軽が出張してきたほど賑わったといえます。



米沢街道と庭坂宿

米沢街道は奥羽山脈を越え奥州街道と米沢城下をつなぐ街道で、米沢藩専用道路でした。戦国時代に米沢城の伊達氏が大森城を拠点に勢力を伸ばす軍用道路として八丁目(松川)までの街道(大森道)が整備されました。上杉氏が米沢に移封された江戸時代初期に庭坂宿の外、李平・笹木野の

宿場が整備されますと庭坂から福島への道が本街道(福島道)となります。庭坂宿は庭坂砦を中心に設けられた宿場で、階段状に連続する鉤型道路・街道沿いに掘られたつるべ井戸などが特徴で、宿場全体が砦のようです。上杉氏初期の参勤交代の宿泊地でした。



道中絵図「庭坂宿」宝暦11年(1761)(米沢益田兵馬喜満筆/笹木野 藤田辰雄写)